

十元ヲ渡シタルカ後チ金主ナル支那人周応時ヨリハ二百元ヲ受取り内百七拾元ハ着服シタルコト暴露シ一悶着ヲ演シタルモ結局第二回ノ来航者八名ニ対シ二百四十元ヲ交付シタルヲ以テ近藤等四名ハ一先ツ帰京シ山井等ニ談判シ手当金ノ請求ヲナス為帰京シ第一ノ来航者中柏原勲ハ市瀬ノ感情ヲ害シ市瀬カ兵器局夜襲ノ際之レカ実行ヲ命シ故意ニ死地ニ陥レタルヲ忿リ争論ノ上一時ハ刺殺スベシト迄公言シ居リタルカ是又若干ノ金員ヲ交付セラレ広岡喜一郎ト共ニ帰京シ市瀬モ次イテ東上シ木村友藏ハ大連ニ向ヒタル由ナリ右ノ如クニシテ当地ニ残留シタルハ小室敬二郎、篠原庄太郎、山路成雄、入佐諭吉、小宮山繁、水野季雄ニシテ外ニ近藤卯三郎ハ本月十二日女婿夫婦ヲ伴ヒ商用ノ為メト称シ再度来航シタルモノニシテ計七名ナルカ何レモ金員欠乏ヲ告ケ其ノ日ノ糊口ニモ差支ヲ生スルニ至リタル結果市瀬ノ股肱トシテ會計方ヲ担任セシ小室敬二郎ニ対シ嚴談ヲ試ミ暴行ニ訴フルカ如キ有様ニ立至リタリ而シテ市瀬ハ近藤卯太郎カ再度渡来ニ際シ且下東京ニ於テモ金策困難ナレバ約定ノ手当ヲ送付スルコト能ハサルモ下宿料位ハ送金スル筈ニ付今暫時上海ニ在リテ時機ヲ俟ツベシト伝言シタリト

調査ノ上匪徒ト通シ不穩ノ企ヲ為スノ惧レナキ場合ハ諭示退去ヲ猶予スル見込ナリ

尚ホ近藤卯太郎ノ言ニ拠レハ同志ハ各自変名ヲ用ヒ互ニ機密ノ洩レンコトヲ警戒シ居レル故其ノ姓名ハ知ラサルモ杭州事件ト前後シテ数名ノ軍人広東ニ向ヒタル由ナリ右及報告候 敬具

本信写送付先 杭州、南京領事館

広東総領事館

北京公使館

附 在本邦中国留学生問題

五九一 一月二十三日 在天津窪田総領事ヨリ
在中国山座公使宛

中国留学生海外派遣中止ノ事情ニ関シ報告ノ

件、

(写)

北機第三号

大正三年一月廿三日

云フ
大略叙上ノ次第ニシテ現在当地ニ残留セルモノハ何レモ今後ノ動乱勃発ノ機ヲ觀望シ之レニ参加セントスルノ意志ヲ懷抱スルノ疑ヒアルノミナラス糊口ニモ窮セル結果邦人軍人連ノ追求ヲ免レン為所在ヲ晦マシ居ル匪徒周応時其他ノ支那人ノ潜伏処ヲ突キ留メ之レニ強要スルトキハ調金セシムルノ見込アリトナシ狂奔シツ、アル如キ狀況ニテ彼等同志間并ニ支那人匪徒ノ間ニ悶着ヲ生スル結果過敏ナル視線ヲ放チ居レル支那探偵ノ覺知スル所トナリ遂ニ此等日本軍人カ匪徒ト通シ支那ノ安寧秩序ヲ紊乱セント企テツ、アリトノ事實公表セラル、ニ於テハ日支兩國々交上ノ利益ノ結果ヲ生スルニ至ルノ惧ナシトセス依テ上記七名ニ対シ本月十八日諭示退去ヲ命シタルニ篠原庄太郎ハ翌十九日ヲ以テ山路成雄、入佐諭吉、小宮山繁、水野季男ハ二十二日ヲ以テ何レモ出發シタリ小室敬二郎ハ同志間確執ノ為同船シ難キ事情アルニ依リ二十六日以内ノ便船ニテ出發スヘク誓言セリ

近藤卯太郎ハ再度渡来ノ際女婿夫妻ヲ同伴シ且ツ雜貨商品千余円ヲ輸入シ在留商業ヲ営ミタキ旨申立ツルニ依リ事實

在天津

総領事 窪田 文三

在支那

特命全權公使 山座円次郎殿

留学生海外派遣差止ニ関スル件

本件ニ関シ客月十二日附機密第四八号ヲ以テ大臣宛機密第四三二号往信写添付取調回答方御申越ノ趣敬承当地ニ於ケル情況取調候処留学生海外派遣ニ関シテハ中央ニ於テ之ニ関スル規則ヲ目下制定中ニシテ右制定ノ上追テ何分ノ命令アル迄海外派遣ヲ見合スベキ旨嘗テ訓令ニ接シ居リ日本及他ノ各国共總テ派遣ヲ見合ハセ居ルモ一面当省ノ財政狀態ハ仮令中央ノ訓令ナシト雖モ目下ノ処到底官費派遣ヲ許サザル有様ナル趣ニ有之候又從來ヨリ派遣中ノモノニ関シテ如何処理スベキカ問合候処右ニ関シテハ目下留学生費用トシテ従前ノ八割ヲ送付シ居リ期限満期ニ至ラバ全部帰朝セシムルコトニ内定シ居ル由ニ有之候將又本件ニ關聯シ当地都督府副官長楊文愷ノ語ル処ニ依レバ在日本ノ陸軍留学生ノ内第二亡命者ト氣脈ヲ通シ居ルモノアルヲ以テ中央政府ニ於テハ右取調ノ為メ陸軍大佐呂外二名ヲ日本ニ派シ其事

務所ヲ支那公使館内ニ設ケ調査セシメタル処果シテ右等ノ事實アリタル由ニテ留日学生ノ内嫌疑者トシテ五十三名ニ帰朝ヲ命シ客年末該五十三名ハ着京シ詳細取調ノ結果此内二名ハ明カニ孫黃等ト通シ現政府推倒ヲ陰謀シタル証拠充分ナリシヲ以テ直チニ死刑ニ処セラレタリ云々ト語り居リ候ニ就テハ中央政府ニ於テ海外留学ヲ見合ハサシメタルハ或ハ本件ノ如キモ其原因ニハ非サルカトモ思考被致候右御回答旁御参考迄及御報告候 敬具

五九二 三月二十三日

在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛

留学生ノ派遣停止ハ財政及学生ノ過激行動ニ
原因スト認メラルル件

公第八五号

(四月式日接受)

大正三年三月廿三日

在支那

特命全權公使 山座 円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

支那ノ海外留学生ニ関スル件

支那中央地方共近來海外留学生ノ派遣ヲ停止シ或ハ呼戻ス

ニテ日本ノ留学生ハ品学混雜良莠分チガタキニ付民国元年以後ノ派遣ノ者ハ兎ニ角一切呼戻ス可シトノ事ニテ湖南学生等ハ会合対策研究中ナルモ各団体ノ主張区々一致セス云々

ト有之兎ニ角支那カ海外殊ニ本邦留学生制限ノ一徴候ト見ル可ク右何等カノ御参考迄及報告候也

五九三 五月十四日

在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛

留学生取扱ニ関スル湯教育総長ノ答申要旨報
告ノ件

附 記

大正三年五月調査在本邦支那留学生統計表

公第一六九号

(五月十四日接受)

大正三年五月十四日

在支那

特命全權公使 山座 円次郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

在本邦支那留学生ニ関スル件

在本邦支那留学生ハ官費生千八百余名自費生約六千名ナル処各省ニ於テ学費送附方遲滯スル為メ常ニ面倒ナル交渉ヲ

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 (附) 五九三

等ノ消息ハ時々聞知スル所ニテ其原因ハ財政ノ困難ヨリスル節約ノ見地ニ出ツルモ留学生自身ノ品学ノ粗雜ニシテ殊ニ我国ニ留学スルモノハ毎々過激ノ言論集会ヲ為シ政府官場者ノ累ヲ為スカ如キノ傾向アルモ亦其一因ニ有之現ニ先般財政部カ政治會議ニ提議シタル地方財政標準案中ニ於テモ爾来各省ヨリ海外ニ派遣シタル留学生中既ニ高等学校以上ノ程度ニアルモノ、外ハ一切官費給付ヲ停止ス可ク又向後ハ新タニ留学生ヲ派遣セサル可シトノ事ニテ政治會議モ右提案ニ賛成議決シタル次第ナレハ右追々実行サル、事ナルヘク三月十一日ノ当地発行ノ民報ニ東京來信トシテ記載スル所ニヨレハ

海外留学生ハ財政困難ノ影響ヲ受ケ數月以來各省ニテ其給費ヲ送付セサルモノサヘアリ此月初湖南省委員ハ整理旁銀一萬元ヲ携ヘ東京ニ來リ各生ニ平均廿六元ツ、ヲ給付セルモ向後引續キ給付サル、ヤ否ハ知ル可カラス月前湖南都督ヨリ在東京公使ヘノ書面ニヨレハ官費生ハ一切之ヲ取消ス可シトアリ公使ヨリ五学校(五学校トハ何々校ヲ指シヤ不明)在学者ハ高等程度ニ在ルモノナレハ取消シガタシト申送りタルニ湖南湯都督ヨリハ重ネテ電報

生シ又教育部ニ於テモ此等ノ件ヲ放任シ置クヲ以テ夫等紛紜事件ハ皆公使館ニ叢集ス之ヨリ職務上其勞怨ニ任スヘキコト、ハ申シ乍ラ内外ニ対スル教育方針ニ就キ教育部ニ於テ可成速ニ確定セラルヘキモノナリ云々在東京支那公使ヨリ大總統府前秘書庁ヘ上申スル所アリシヲ以テ教育部ニ注意ヲ与フヘキ旨大總統ノ命ニヨリ同秘書庁ヨリ教育部ニ通知シタル結果

日本留学生事務ニ関シテハ監督ヲ廢シ經理ト改メタル以後中央及各省ヨリ夫々日本ヘ經理員ヲ派遣シ爾來一個年余事実上何等故障アリシコトナク又日本留学生經理事務暫行規程三十四条及日本留学自費生管理暫行規程十三条ヲ制定シ政府公報第六百一十一号ヲ以テ公布シタリ同規程等ハ汪前總長在任中ニ制定セラレタルモノニシテ汪前總長ハ曾テ多年公使トシテ日本ニ駐劄シ日本留学事務ノ利弊ハ充分ニ洞悉シ居ルヲ以テ同規定發布以後円滑ニ施行セラル、趣ハ屢々各經理員ヨリノ報告ニ接セリ又近來湖南廣東等ノ省ハ財力欠乏ノタメ在日本官費留学生減員方ニ関シ本部ノ認可同出タル趣モアリ又各省ニテ学費送附延滯ニ関シテハ事実上全ク免カレ難キ所ナルモ各省ヨリ

夫々経理員ヲ派遣シ居ル以上ハ各本省留学生ニ対スル学費送附又ハ催促事務ハ固ヨリ各該経理ノ専務ニ属シ仮令其本省ヨリノ学費廻附方遅延セル場合本部ヨリ催促依頼ノ電報アリタル時ハ毎度之カ取次キヲ為シ来リタルコトアリ其日本官庁ト交渉スヘキ事件ニシテ経理員ニ於テ直接取計兼ネタルモノハ自然駐在公使ノ手ヲ煩ハサ、ルヲ得ス此等対外事件ハ留学生ヲ派遣シアル国ニテハ何レモ其国駐在公使ノ取扱ニ属スルヲ以テ客年本部ニ於テハ欧米留学規程ヲ規定發布シタル次第ナリ其他官費生ニシテ学業ヲ怠リ又ハ規則ヲ遵奉セサルモノ又ハ官立学校ヨリ私立学校ニ移リタルモノ、如キハ何レモ経理員ヲシテ官費支給ヲ停止セシメ其私費生ニ関シテハ資格ノ制限渡航ノ順序及調査ノ格式管理ノ方法等ノ類モ明細ナル規定ニ依テ施行シツ、アリ之ヲ要スルニ日本留学ノ官費生私費生ニ対シテハ一トシテ嚴格主義ヲ執ラサルコトナク曾テ放任ノ儘ニ為シ置キタルコトナシ去年十二月ニハ又海外留学ニ関スル統一ノ方法ヲ擬定シテ國務院ノ會議ニ提出シ其後該案ヲ繰上ゲ附議セラレンコトヲ同院ニ催促シ既ニ財政部ノ調査ニ移サレタリトノコトナリ更ニ又別ニ留

学経費支給規程ヲ制定シ此又財政部ノ調査ニ移シアレハ同部ノ認定次第直チニ發布施行ノ筈ナリ以上ハ本部カ海外留学生ニ対シテ施行シ来リタル情況ニシテ尚対内教育方針ニ関シテハ本部成立以來屢々發布シタル命令規定等ハ疾ク実施ヲ経居ルコトハ公文書ニ付テ証明セラル、所ナルモ尚向後本部ニ於テ隨時注意ヲ加ヘ大總統ノ殷々タル詰誠ニ副フヘシ

トノ趣教育部總長湯化竜ヨリ答申スル所アリシニ対シ教育ハ關係緊要ナルヲ以テ確實ニ整理シテ進行ヲ策励スヘク海外留学生ノ件ニ関シテハ同部ト日本駐在公使ノ間ニ隨時妥商弁理スヘシトノ指令アリタリ(本月十一日附十三日政府公報掲載)

右ハ重ニ在本邦支那留学生ニ関スル事項ナルヲ以テ特ニ具報申進候也

(附記)

大正三年 五月調査 在本邦支那留学生統計表

(文部省及内務省ノ調査ニ拠ル)

- 一、文部省直轄学校 六百六十六人
二、在東京官公私立学校 千七百十二人

三、地方官公私立学校 百十四人

合計 二千四百九十二人

〔内 訳〕

一、文部省直轄学校之部(総数六百六十六人)

(学校別)

東京帝国大学(四五)

法科八 医科七 工科一四

文科五 理科四 農科七

京都帝国大学(二〇)

法科九 文科一 理工科一〇

東北帝国大学(三三)

農科六 医学専門部一三 工学専門部一四

九州帝国大学(二三)

医科二 工科一

東京高等師範学校 七二 広島高等師範学校 四

東京女子高等師範学校 六 鹿児島高等農林学校 一〇

東京高等商業学校 二七 神戸高等商業学校 三

長崎高等商業学校 七 山口高等商業学校 五

第一高等学校 六二 第二高等学校 一四

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 (附) 五九三

第三高等学校	一三	第四高等学校	五
第五高等学校	一一	第六高等学校	一一
第七高等学校	一〇	第八高等学校	八
千葉医学専門学校	三八	岡山医学専門学校	一二
金沢医学専門学校	一	長崎医学専門学校	二八
東京高等工業学校	一四〇	大阪高等工業学校	三〇
京都高等工芸学校	九	名古屋高等工業学校	一四
熊本高等工業学校	一	秋田鉱山専門学校	四
東京美術学校	一二	東京音楽学校	七
東京聾啞学校	一		

(官私費別)

官費	六二一	私費	三四
未詳	一一		

(男女別)

男	六六〇	女	六
---	-----	---	---

(省別)

広東省	一一五	浙江省	八五
湖北省	五七	直隸省	五四
江蘇省	五三	四川省	五二
			八五五

湖南省	五〇	江西省	四六
福建省	二七	山東省	一九
貴州省	一八	雲南省	一五
安徽省	一五	広西省	九
山西省	八	奉天省	五
河南省	四	吉林省	三
陝西省	二		

二、在東京官公私立学校ノ部 (総数千七百十二人)

(学校別)			
明治大学六六六	(直接同大学ニ リト云フ 約八四〇人ナリ)	日本大学	二二二
成城学校	一五三	日華学院	一三九
志成学校	九七	東亜同文書院	八七
正則英語学校	六七	早稻田大学三三三	(直接同大学ニ リト云フ 約二〇〇〇人ナリ)
中央大学	二一	日語学校	二〇
私立農業大学	一九	正則予備学校	一九
慶応義塾	一六	東京女子医学校	一六
独乙語専修学校	一六	法政大学	一二
東亜日語学校	一〇	同文学院	九
陸軍士官学校	八	日華学校	八

薬学校	五	物理学校	五
女医学校	五	中華基督教青年会	五
東京慈恵院医学専門学校三		岩倉鉄道学校	四
農商務省水産講習所	一	東京府立第一中学校	二
国民英学会	二	日本美術学校	一
高等日語学校	九	早稲田工手学校	一
青山学院	一	女子医学専門学校	一
東京主計学校	一	東亜日本学会	一
(洋画研究)		立教大学	二
女子美術学校	二	数学院	一
東亜文学会	三	研数学館	二
中央氣象台見習生	二	東亜学会	一
神田青年会	一	女子美術速成学校	一
医学専門学校	一	青年会学校	一
府立第二高等学校	一	女子大学	二
東洋大学	一	愛日小学校	一
高等女学校	一	共立女子職業学校	一
和洋女子裁縫学校	一	東亜学校	二
東京薬学校	二	女子大学附属高等女学校一	

日比谷小学校	一	日本体育会体操学校	三
府立織染学校	二	本郷洋画研究所	一
曉星中学校	二	東洋商業学校	一
基督青年会	一	東京学院	二
女子音楽学校	一	東京齒科専門学校	一
東洋音楽学校	一		
(官私費別)			
官費	三七八	私費	一、三三四

(男女別)

男	一、六七九	女	三三
---	-------	---	----

(省別)

広東省	二七八	湖南省	二二二
江西省	一八六	江蘇省	一七七
浙江省	一二九	湖北省	一二一
四川省	九七	陝西省	九一
福建省	七九	雲南省	五六
直隸省	四八	山東省	四五
山西省	四〇	安徽省	三三
奉天省	三一	広西省	一八

貴州省	一五	吉林省	一一
河南省	二	黒竜江省	二
三、地方官公私立学校之部 (総数百十四人)			
(学校別)			
京都府 (一四)			
私立立命館中学校	一	府立医学専門学校	七
私立京都中学校	一	市立絵画専門学校	三
府立第一中学校	一	私立同志社普通学校	一
大阪府 (二七)			
大阪府立高等医学校一八		同 天王寺中学校	一
同 高等商業学校	一	同 工業学校	三
同 清水谷女学校	一	私立関西大学	一
大阪府立市岡中学校	一	私立桃山中学校	一
神奈川県 (二二)			
海軍砲術学校	二〇	セントジョセフ中学	二
愛知県 (二四)			
愛知医学専門学校	二四		
長崎県 (一一)			
私立鎮西学院	三	私立東山学院	一

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 (附) 五九四

同 海星中学校	二	同 梅ヶ崎女学校	一
同 活水女学校	三	同 錢座尋常小学校	一
兵庫県(一)			
姫路中学校	一		
奈良県(一)			
奈良郡立農学校	一		
富山県(一)			
富山県立藥学専門学校	一		
宮城県(五)			
宮城県立第一中学校	三	同 農学校	二
岩手県			
岩手県立農学校	一		
岡山県(七)			
岡山県立師範学校	一	岡山県工業学校	六
(官私費別)			
官費	七〇	私費	四四
(男女別)			
男	一〇九	女	五
(省別)			

育顧問ノ意見書送付ノ件

当省教育顧問峯旗良充ハ当省ニ応聘スルコト多年能ク当局者ノ信用ヲ得其劃策意見等亦少カラズ当局者ノ容ル、処トナリ昨年ハ当省教育者四十余名ヲ本年ハ当地師範学生三十余名ヲ率キテ本邦視察ニ赴ケル次第ハ御承知ノ通ナルガ数年来本邦在留支那学生帰国後ノ成績及其日支両国々交ニ及ホス影響渺カラザルヲ憂ヘ今回別紙写ノ如キ本邦留学生取締意見ヲ教育総長湯化竜宛提出致候篤志教育当事者ノ意見トシテ御参考迄右写差進候間御査閱相成度候 敬具
本信写送付先在北京日置公使

(附屬書)

吉林省教育顧問峯旗良充ヨリ湯教育総長宛意

見書

湯教育総長閣下

予ハ吉林省ニ在ルコト五年教育養成ノ事ニ從フ傍教育普及及ビ改善ノ事ニ就テ常ニ当局者ノ諮問ニ答ヘ或ハ進言ヲ呈シ居ルモノナリ国家改善ノ根本ハ人材ノ養成即チ教育ニ在ルヲ以テ苟モ教育ニ関スルコトハ細大漏サズ留意シ其得失ヲ研究シ居レリ、予一昨年ハ私事ヲ以テ昨年ハ本省各県教

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 (附) 五九四

八五八

広東省	一八	江蘇省	一八
浙江省	一五	四川省	一五
湖北省	一〇	直隸省	九
奉天省	九	湖南省	八
福建省	四	山東省	二
安徽省	二	河南省	二
江西省	一	山西省	一

五九四 九月二十二日

在吉林林領事ヨリ
加藤外務大臣宛

在日留學生取締改良ニ関スル峯旗吉林省教育

顧問ノ意見書送付ノ件

附屬書

吉林省教育顧問峯旗良充ヨリ湯教育総長宛意
見書

公第九九号

(十月一日接受)

大正三年九月二十二日

在吉林

領事 林 久治郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

在本邦支那留學生取締改良ニ関スル吉林省教

育行政当局ヲ率キ本年ハ師範生ヲ携ヘテ渡東シ日本各地教育視察ノ傍ラ親シク中国留日学生ト往来シ其狀況ヲ觀察シテ真ニ寒心ニ堪ヘザルモノアリ留學生取締方法ノ改善ハ一日モ忽ニスベカラサル急務ト信ジ左ニ聊カ其鄙見ヲ述ベントス其当レルヤ否ヤハ偏ニ高判ヲ仰グノ外ナシト雖改善セザル可ラザルニ至テハ動ス可ラザル事実トス現時ノ中国留學生ヲ見ルニ其素養日本中学教育修了ノ学力ヲ具フルモノ優良ニ属シ其多クハ之ヲ備ヘザルガ如シ從テ未ダ一定ノ識見ヲ得ズ外部ノ刺戟ヲ受ケテ動カサレ易シ官立各校私立中二三、優秀ナル学校ニ在学セル者ハ比較的良好ナルガ如キモ此等学校モ留學生ニ對シテハ日本学生ニ對スルト其待遇ヲ異ニシ優遇ノ意味ニテ不干渉主義ヲ執リ居レリ其他一般ノ私立学校ニ在学シ或ハ日本語文予備時代ニ在ルモノハ学校ノ監督嚴重ナラズ其日常生活概ネ不規律ナル旅館生活ヲナシ其食ヲ美ニシ其衣ヲ麗ニシ遊惰日ヲ消シ殆ンド真面目ニ勉学スルモノナシ彼等ノ望ム所ハ実力ニ非ズシテ一枚ノ卒業証書ノミ、留日四五年普通ノ日語ニサヘ通セサルモノアリ聞ク其甚シキモノニアリテハ日本ノ苦學生ヲ質シテ学校ニ出席セシメ試験ニ通過スト、学校モ多数ノ學生ニ對シ

八五九

テ精細ナル能ハズ黙過スルモノ少ナカラズト、其他実状ヲ聞クニ真ニ慨嘆ニ堪ヘザルモノアリ由來東京ノ地複雑ニシテ往々自重心ナキモノヲシテ誘フテ墮落ニ赴カシム、中国学生其多クハ家庭教育ノ不備学校訓育ノ不完全ヨリシテ往々自重心自治能力ヲ欠キ日夕嚴格ナル監督ヲ受クルニ非サレバ直ニ放漫ナル生活ヲナシ終ニ救フ可ラザルニ至ル、文明ノ裡面、時ニ暗黒アルヲ免レズ、熱鬧ノ都市不良ナル誘惑機關少ナカラズ兩々相待チテ善良ナル子弟ヲ誤ルコト多シ、其極善良ナル方面ニ通ゼズ善良ナル人物ニ接近セズ自己ノ墮落ハ他ノ冷遇ヲ招クニ至ル、是ニ至リテ却テ理無キ反抗心ヲ起シ且ツ見識低クシテ世界ノ大勢東亞ノ形勢等ヲ看取スル能ハズ往々排日的言動ヲ敢テシ唇齒ノ中日兩國ヲ疎隔シ東亞永遠ノ大計ヲ誤ラシメ或ハ見識定マラザルヨリシテ往々不健全ナル思想ニ惑セラレ終ニ学生ノ本分ヲ忘レテ余事ニ奔馳スルモノ少ナカラズ學識実力ニ於テ何等蘊蓄スルナク品性人格ニ於テ何等尊敬スベキ資質ヲ備フルナク数年後外面錦ヲ飾リ内実空虚ニシテ帰來ス故國ニ帰來スルヤ堅実ナル思想有要ノ學識ヲ以テ國人ヲ教導シ貢獻スルニ非ズ腐敗物ハ他ヲシテ同化セシム唯々外國ノ皮相文明ノ模

キニ過グ

一、語學ノ予備ハ本國ニ於テ之ヲ行フ

中央其他適當ノ地点ニ於テ予備校ヲ設ケ修學年限ヲ一年半以上トシ撰拔後之ヲ入学セシメ専ラ語學ノ知識及留學上必須事項ヲ(其國ノ歴史地理等ノ如キ)授ケ日本ニ至リテ後直ニ望ム所ノ學校ニ入学スルヲ得セシム

此事極メテ必要ニシテ現時日本ニ於テ完全ナル語學予備校ナシ各學生ノ語學準備方法ヲ見ルニ同文書院ニ入学スルモノ稍良好ノ部トシ其他ハ多クハ神田附近ニ支那留學生ヲ對手トスル怪シゲナル學校ニ籍ヲ置ケルガ如シ其等ノ學校ニ於テハ規律嚴重ナラズ學生ノ多クハ怠惰ニシテ勉學セズ甚シキモノニ至リテハ一ヶ月中出席一兩日其他ハ遊惰ニ日ヲ送り居ルカ如シ懶惰ノ習慣ハ多ク此期間ニ養ハレ其実状ヲ見バ思半ニ過グルモノアラム、即チ日本ニ赴キテ後語學ヲ準備スル目下ノ制度ハ其方法宜シキヲ得ザル為メ多大ノ經費ト貴重ノ時日ヲ徒費シ而カモ大害ヲ受ケツ、アルモノト云フベシ

若シ本國ニ於テ之ヲ為ス能ハザレバ日本当局ニ依頼シ相當ノ方法ヲ設ケ留學生ハ其処ニ於テ準備ス可ク強制シ學生ノ

傲タル態度服裝ノ美等ヲ以テ益順朴ノ郷党ニ惡風ヲ傳播セシム若シ幸ニシテ運動ノ結果任官スルヤ実力ナキヲ以テ治績ヲ拳グル能ハズ道德心欠乏セルヲ以テ社会人民ノ幸福ヲ図ル等ノ念毫末モ有ルナク自己ノ私ヲ肥スヲ以テ能事終レリトナスガ如シ其弊ノ及ブ所當ニ自己生涯ヲ誤ルノミナラズ之ヲ大ニシテハ國ヲ誤リ之ヲ小ニシテ郷党ヲ毒ス、之ヲ派遣スル國家及父老ハ益ヲ得ントシテ大害ヲ受ク之ヲ收容シテ教ヘシ日本ハ東亞ノ開發上ニ資スル所アラントシテ反テ反對ノ結果ヲ見ル損失之ヨリ大ナルハナシ、是レ皆留學生撰択方法ノ不備其取締方法ノ不善ヨリ來ル所トス即チ左ニ是非改良セサル可ラザル要點ヲ述ベ矯正上ノ条項ヲ挙グ、

一、留學生ノ資格ヲ高ムベシ
官費留學生ハ必ズ本國ノ高等學校卒業程度ノ學生女子ハ女子中等教育修了者ヨリ学力品性体格年齡等ニ就キ嚴格ナル選拔法ヲ用キテ撰定ス男子ハ各省ニテ一回予備試験ヲ行ヒ本試験ハ中央ニ於テ之ヲ行フ

此項ヲ実行セバ必ズ留學生ノ數ヲ減ジ少數ナルモ質ノ善良ナルモノヲ撰ビ得テ其効果甚大ナリ現時ノ留學生數ハ寧多任意ヲ許スベカラズ、東三省ノ如キハ關東都督府南滿鐵道会社ニ於テ公學堂ヲ設ケ居レバ其ニ依頼シ特別ノ方法ヲ講ゼシム等モ適法ナリト信ズ

三、各省獨立ノ留學生ヲ廃シ凡テ中央ニテ統括スベシ
第一、第二ヲ実行シ且ツ在日學生ノ監督ヲ嚴重ニセント欲セバ勢ヒ各省派遣ノ制ヲ廢シ中央ニ於テ之ヲ統括スベシ其學費ノ如キモ各省ヨリ支出セシムルモ可ナリト雖モ中央ニ於テ之ヲ統一スベシ

四、在日學生ノ監督方法ヲ改善スベシ
従前留學生監督ヲ置キ後改メテ各省一名ノ經理委員ヲ置キシモ成績良好ナラズ僅ニ中央經理委員ノミヤ、嚴ナル監督方法ヲ行フニ過ギズ目下ノ經理モ多クハ金銭ノ出納ヲ司ルヲ主トセルノミニシテ監督方法ハ全ク失敗ト云フ可シ本年陸公使曰ク目下學生約八千アルベシ唯々事勿レ主義ヲ以テ對シツ、アルノミ留學生ノ取締ハ真ニ難事ナリト当局者ノ無策亦斯ノ如シ左ノ如キ方法ヲ用ユレバ比較的效果ヲ挙げ得ベシ

(一) 中央經理委員ヲ改メテ總監督ヲ置ク
(二) 總監督ノ下ニ大學、師範、高等學校、実業等ノ各科專屬

ノ一管理員ヲ置ク一管理員下三十名位ノ学生ヲ統率セシム
(三) 日本当局ト協議シ名望アル教育者ヲ聘シテ指導者トス、

総監督処一名ノ顧問ヲ置キ各科管理必ズ一名ノ指導者ヲ設ケ学生ノ一切ヲ懇篤ニ指導セシム

(四) 留学生ノ在学スル学校ハ其教職員中ヨリ一名以上其校留學生指導教師ヲ設ケ常ニ総監督処及管理員ト協力連絡シテ留學生ヲ指導スルコト、

(五) 東京以外ノ地ニテ二十名以上ノ所ニハ必ズ管理員ヲ置ク以下ノ処ハ留學学校ニ全部ヲ依頼シ全責任ヲ以テ監督セシム、

五、寄宿舎ヲ設クベシ

墮落ノ原因多クハ不規律ノ下宿生活ナルヲ以テ下宿生活ヲ嚴禁スベシ学校教授ノ宅等ニ居ルモノヲ除キ其他ハ寄宿舎ヲ設ケテ收容スベシ其寄宿舎ハ日本各師範学校寄宿舎制度ニ則リ舍監其他ノ職員ハ中日両國人ノ熱心ナル教育ニ通ズル人士ヲ招キテ之ニ充ツ

一寄宿舎一百五十名位ヲ定員トス其方法等ハ充分之ヲ研究シテ完全ヲ期スベシ寄宿舎ノ位置ハ市内雜閑地ヲ避クルヲ

札幌盛岡ノ農業、秋田ノ鉱業、医学ノ各地専門学校ニ於ケル染織ノ米沢京都ニ於ケル其他ノ学校モ各地方多ク之ヲ具フ

八、実科文科ノ学生ヲ増加スベシ

中国讀書子ノ理想、官吏タルヲ以テ目的トス官尊民卑ノ思想上下ヲ風靡セリ、為ニ書ヲ讀ムモノ多クハ官吏タルノ準備トシテ政道ニ關係アルモノヲ選ブ其習慣タルヲ引テ今日学生ノ腦裡ヲ司配シ優秀ナル人物ハ多ク法政ノ學ヲ修メントス留學生ノ十分ノ七八法政ヲ修ムルモノトス業終リテ官途ニ就クヲ得バ何等支障ナシト雖供給需用ニ越ユルコト幾十倍、其他情実等ノ事アリテ容易ニ青雲ノ志ヲ得ル能ハズ此ノ如キ徒ハ空言徒食高等遊民トナル此レ甚ダ憂フベキ現象トス近来稍実科方面ニ志スモノ増加スルニ至リタルハ喜ブベキコトナリ中国ノ從來ハ空言ノ徒ニ飽キタリ今後中国ノ開發ハ実科ノ知識ニ待タザル可カラズ、文科ハ精神文明ノ根底ヲ司ルモノニシテ之ヲ苟モスベカラザルモノナリト雖文科ニ属スル學問ハ困難ナルト共ニ學ヲ修メシモノノ社会ニ出テ、後其生活将来ノ榮達等甚ダ困難ナリ、現時留學生ノ狀況ヲ見ルニ其方面ニ志スモノ殆ンドナシ古來光輝燦然

可トス刻下ノ日本交通機關發達シ通學上何等支障ナシ、各地方三十名以上ノ学生アル所ハ努メテ之ヲ設クベシ

六、經費取締方法

留學生ノ學資ハ日本學生ニ比シテ豊富ナリ之ヲ善用スル人極メテ少ナク之ヲ惡用シテ墮落ノ原因ヲ作ル人多シ、寄宿舎ヲ設ケン後ハ總監所ヨリ各寄宿舎會計ニ交付シ食費會費月謝等ヲ控除シ日常ノ小遣ノミヲ學生ニ交付シ其他ハ勉メテ之ヲ蓄積シテ病氣ノ時ノ手當旅行見學、圖書購入等ノ有用方面ニ用キシム

七、東京以外ノ地方ニ分布セシムベシ

吾人ノ見ル所ニヨレバ東京留學生尤モ甚シク墮落シ大阪之ニ次グ少数ノ所ハ概ネ成績善良ナリ特ニ仙台ノ如キ留學生ノ品學、日學生ニ比シテ遜色ナシ一意専心學事ニ耽ルガ如シ此レ其土地閑靜ニシテ誘惑機關少ナク其地教育者熱心ニ指導シ子弟關係甚ダ密ニシテ能ク其放恣ヲ容サバルニヨル此ノ如クシテ初メテ留學ノ効果アリ東京ノ如ク多数集合シテハ監督上甚ダ不便ナリ以後勉メテ各地方ニ分遣セシムベシ日本教育ノ發達ハ地方ト雖科學上不便アルナシ、東京以外ノ地ニ就テ不便ヲ感ズルハ法政ニ關スル学校ノミ例セバ

タル文明ヲ發揮セシ民族ノ子孫トシテ此方面ノ研究モ決シテ忽ニス可ラザルナリ

以後留學生ヲシテ任意ニ課目ヲ撰バシムルノ制ヲ廢シ、命令ヲ以テ所定ノ科ヲ修メシムベシ併セテ各科ノ人員ノ多少ハ中国現時ノ需用将来ノ狀況ヲ斟酌シテ慎重審議之ヲ定ムベシ

九、賞罰ヲ嚴ニスベシ

第四項ヲ嚴重ニ実行シ罰法ヲ最モ嚴ナラシムベシ、即チ總監督処ニ取消シ、停學、學資減額等ノ權能ヲ与ヘ遺憾ナク之ヲ運用セシムベシ、現時此法甚ダ乱レ居レリ、賞ハ名譽上ノ賞ヲ用フルヲ可トス

十、自費生ノ取締

尤モ困難ヲ感スベシト雖モ自費生ノ可否如何ハ官費生ニ影響スル処甚ダ大ナリ為ニ同ジク嚴重ナル取締ヲ用ユルヲ可トス、

1、努メテ寄宿舎ニ入ラシム

2、總監督各管理ノ監督ヲ受ケシムベシ

3、成績不良ノ者ニハ學生トシテノ在留ヲ禁止スベシ

附項、一、各高等学校程度以上ノ教員中ヨリ留學生ヲ派遣

スル制度ヲ設クベシ、世界ノ進歩ハ須臾モ止マラズ少シク油断スレバ直ニ時勢ニ遅ル、中国人ノ弊トシテ校門ヲ出ツレバ往々勉学ヲ抛擲スルモノ多シ、後進指導ノ職ニ在ル教育者ヲシテ日進ノ知識ニ遅レザラシメントスルニハ短期長期留学ノ制度ヲ設ケ東西各国ニ向テ之ヲ派遣スベシ即チ一面日進ノ學術ヲ穿タシメ一面鼓吹ニ資スベシ

二、中学教育界初等教育界中ヨリ視察員ヲ短期派遣スル方法ヲ定ムベシ

教育者ヲシテ海外ニ派遣シ見聞ヲ廣クシ刺戟ヲ受ケシム之レ進歩ノ第一段ナリ予二回之ヲ実行シテ其効果ノ大ナルヲ確認セリ費ヲ節シテ之ヲ行フ勞少ナクシテ効甚大ナリ即チ各省内ノ優良教員毎年若干名ヲ撰拔シ撰賞ノ意味ニ於テ日本各地ニ派遣シ視察ノ目的ト範圍トヲ指定シテ視察セシメ其報告ニ徴シテ改善ノ資トナス、不良留学生ノ數ヲ減シテ此種ノ方法ニ費ヲ投ズレバ其効果數等ナラン

(各省之ヲ為ス能ハザレバ一省ヨリ若干名ヲ出シ三四省連合シテ一団ヲ組織スルモ可ナリ)

以上各項皆悉ク必要ニシテ忽ニス可ラザル事項ニ属ス若シ今日ノ如ク放任主義ヲ取ルニ於テハ國家ハ多大ノ經費ト優

良ノ人才ヲ徒費スルモノ、留学制度ヲ設ケ之ヲ実行セシ真意ニ反スル大ナリト云フベシ、是レ中国ノ現在将来ニ採リテ慎重ニ熟慮スベキ大問題ナリトス、以上論ズル所大要ニ過ギズ実施スルニ至リテハ詳細ナル研究ト周到ナル方法ヲ要スルハ勿論ナルモ目下ノ急務ニ対シ一日モ速ニ適當ノ方法ヲ設ケラレシコトヲ希望ス

多数ノ留学生ヲ收容シテ教育シツ、アル日本当局者ハ東亞文明ノ進歩向上日支兩國ノ幸福ヲ念トシ其留学生ノ優良ナル効果ヲ挙ケ將來國家ニ貢獻センコトヲ望ミ居ルモノナレバ前條各項中第二第四第五第七各項ニ就キ日本当局及教育家等ト協議セバ必ズ喜ンデ至誠所托ニ酬ユル所アルベキヲ信ズルモノナリ

非才ヲ顧ミズ愚見ヲ呈出スルコト斯ノ如シ此事ニ関シ若シ疑問アラバ條項ヲ指摘シテ下問セラレシコトヲ、

峰旗良充

事項一五 中国問題ニ関スル意見書雜纂

五九五 二月下旬 筑紫陸軍少將

帝國中華民国兵器同盟策

(極秘)

帝 國 中華民国兵器同盟策 大正三年 筑紫少將
二月下旬

東洋平和ノ覇權ハ帝國ノ自任シテ掌握スル所タラサル可ラス抑モ東洋ノ禍機ハ支那ニ伏在スルヤ言フ待タス今ヤ露國ハ北滿、外蒙古、新疆方面ヨリ英國ハ西藏、長江沿岸ヨリ仏國ハ雲南、独逸ハ山東方面ヨリ米國ハ内地ノ各地ヨリ各其ノ利權ヲ獲得ヲ進歩シツツアリ南滿及内蒙古方面ニ此ノ發展ヲ図ラントスル帝國ハ支那四囲ノ状況、就中露國ノ南進策ニ対シ確乎タル決心ヲ以テ東洋ノ禍機ヲ永遠ニ圧伏シ平和ノ覇權ヲ確實ニ掌握スルノ手段ヲ講セサルヘカラス増師國ヨリ急務ナリ中華民國ト兵器同盟ノ密約ヲ締結スルノ議亦之ト相讓ラサル焦眉ノ提案ナリト信ス

支那國民ハ三百年來四囲ノ圧迫ヲ受ケ或ハ國地ヲ削リ或ハ利權ヲ讓リ朝北暮南折衝ノ術ニ依リテ國家一日ノ安ヲ偷マント欲スルニ似タリト雖モ其ノ失フ所多キモノニ向テハ含

ム所亦從テ大ナラサルヲ得ス露國カ千六百八十九年尼布楚

條約ヲ始メトシ千八百五十八年愛琿條約尋テ千八百六十年ノ北京條約ニ依リ其ノ北境ヲ逐次強略シ今ヤ復タ外蒙古ヲ懷柔シテ南進ノ機會ヲ促進セントスルヲ最トシ帝國カ台灣ヲ取り朝鮮ヲ服シ關東租借權ヲ收受セシカ如キハ支那國民ノ就中忘ルル能ハサル所ナルヘシ露國ニ依リテ帝國ヲ控制シ或ハ帝國ニ依リテ露國ヲ制肘スヘキカノ問題ハ彼等ノ国力此ノ兩國ヲ一丸トシテ敵視スルヲ得サル限り常ニ其ノ胸中ニ往復シアラサルヘカラス独ニ依リテ仏ヲ制シ米ニ依リテ英ヲ扼シ或ハ彼此相噬マシムルノ小策ノ如キハ平和ノ大局上未タ以テ重視スルニ足ラサルナリ

平和ノ維持ハ兵力ヲ負フ外交ノ力ニ依リテ担保セラレ兵力ノ強弱ハ兵器ノ供給補充ニ関スルヤ大ナリ若シ帝國ニシテ支那ト兵器同盟ヲ締結シ其ノ陸軍ヲシテ本邦製造ノ兵器ヲ使用スルニ至ラシメンカ其ノ供給補充ノ策源地ハ帝國ノ内地ニ存在スルカ故ニ施テ支那陸軍ノ強弱ヲ左右シ終ニ彼ヲシテ帝國ノ行動ニ合致スルノ止ムヲ得サルニ至ラシムルヲ